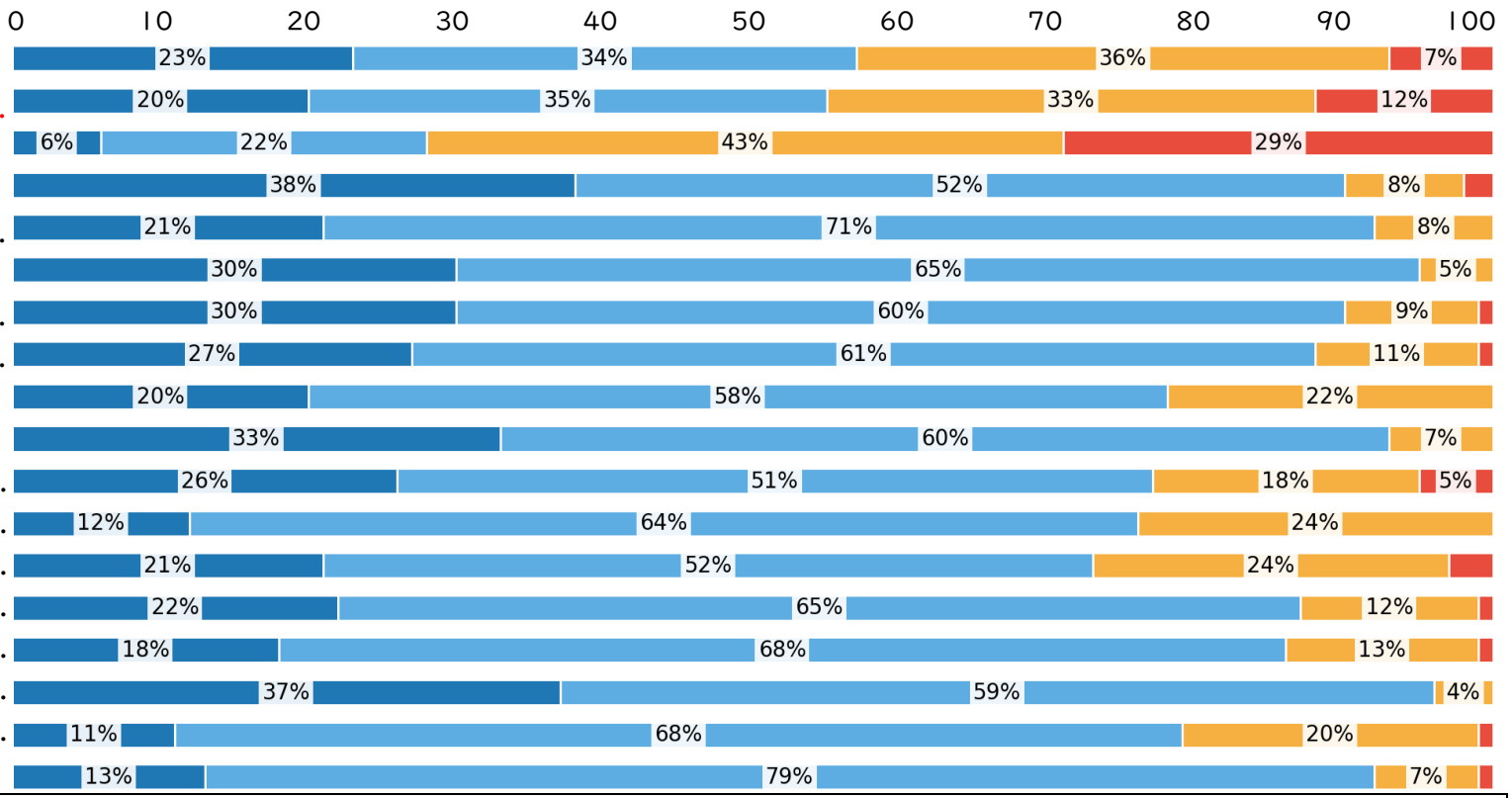
令和７年度

～豊かな心と 豊かな知性をそなえ、たくましく生きる 生徒の育成～

京都市立九条中学校 学校評価アンケート 【後期：保護者】

令和８年２月20日
京都市立九条中学校
校長　川 島 浩 明

※質問項目は裏面参照



後期学校評価アンケートでは、全体として 79.6%の保護者が本校の教育活動を肯定的に評価しており、学校運営に対して高い信頼と安心感が寄せられていることが確認できた。特に、学校だより・学級通信・ホームページといった 情報発信（96%）、子どもの 友人関係（95%）、学校の決まりを守る姿勢（93%）など、学校が主体的に整備・改善できる領域は非常に高い評価を得ており、日頃からの組織的で計画的な取組が実を結んでいることがうかがえる。また、「楽しく通えているか」「学校行事への積極性」「生徒会・委員会活動」など、生徒の学校生活に関わる項目もいずれも 90%前後で推移しており、昨年度から取り組んでいるたてわり活動 が生徒の関わりを広げ、教育的効果を発揮し始めていると考えられる。

一方で、家庭での学習習慣に関する項目には課題が集中している。特に 「家庭での読書（28%）」「毎日の家庭学習（55%）」「自ら進んで学習する（57%）」 の3点は、他の項目と比べて明確に低い傾向を示した。これらは、家庭内での読書習慣や学習習慣の定着に困難を抱える層が一定数存在することを示している。また、「配布物の共有」「学校の話題が家庭に届いているか（77%）」など、家庭との情報循環に関わる項目もやや低めであり、学校で行われている取組や学習内容を “家庭での会話の材料として届ける” 工夫にも改善の余地が見られる。総合すると、学校側が主導できる領域、教育活動の質、安心・安全、行事運営、規範形成、情報発信などは明確な強みと言える。一方で、家庭での学習・読書習慣といった 「日常の習慣化」が求められる領域 は、学校だけでは改善が難しく、家庭との協働が不可欠である。しかし、保護者に努力を求めるものではなく、学校として、短時間で取り組みやすく、継続しやすい学習・読書のきっかけを提供し、家庭との連携を強める必要性を示している。今後は、 推薦図書の提示、読書週間の設定、図書館との連携による読書機会づくりなど、家庭と学校が同じ方向を向いて取り組める仕組みをさらに整備していきたい。これらの取組が進むことで、今回評価が低めであった領域の改善にとどまらず、子どもたちの 自己調整力や主体的な学習態度 を育てる基盤形成にもつながると考える。以上より、次年度の重点課題としては、本校の強みである家庭との協働を通じて、生徒一人一人に適した学習習慣・読書習慣の定着を図り、学力の伸長に繋げたい。

◆グラフの見方《達成度 %》 よくできている 大体できている あまりできていない できていない

◆学校評価アンケート項目【保護者】

1,子どもが自ら進んで学習していること

2,子どもが普段の日に家庭学習を毎日すること

3,子どもが家で読書をすること

4,子どもが楽しく学校に通うこと

5,学校がひとりひとりを大切にした教育活動を行うこと

6,子どもの友人関係が良好であること

7,子どもが学校行事に積極的に取り組むこと

8,学校が生徒会活動・委員会活動・係活動などを積極的に行うこと

9,子どもが進んで挨拶をすること

10,子どもが学校のきまりを守ること

11,子どもが学校から配布されるプリント等を見せたり，家で学校の話をすること

12,家庭で子どもに将来の夢や目標について働きかけること

13,子どもが基本的な生活習慣（早寝・早起き・朝ごはん）を身につけ，実践すること

14,学校が保護者にとって相談や行きやすい雰囲気があること

15,学校が校下の小学校との小中一貫教育を進めていること

16,学校が，学校だより・学級通信・ホームページなどで学校の様子を発信すること

17,学校の活動の中に，地域活動にかかわる機会があること

18,学校における働き方改革が進むこと